

[003] 九州大学極低温実験室だより表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/11018>

出版情報：九州大学極低温実験室だより．3，2002-06．九州大学理学部極低温実験室
バージョン：
権利関係：

編集後記

関係者一同のご協力により、九州大学極低温実験室だより No.3 の発行となりました。今回も極低温物性を軸に、興味深い内容の記事が多数掲載されております。ご多忙中に原稿をご執筆いただいた皆様に深く感謝いたします。

私は化学の研究室で磁性を研究しており、極低温施設は学生時代から10年以上利用させていただいています。最近、長年同じような研究を続けているため、知識の偏りを非常に気にしております。極低温実験室だよりは幅広い分野の研究成果を掲載しており、寒剤を利用した研究のスペクトルの広さと奥深さを知ることができます。特に装置に関するレポートでは、市販の装置をそのまま用いているだけでは分からない工夫の数々に感心するばかりです。また、知識を広げるだけでなく、新たな観点を発見するきっかけも与えてくれるもので、個人的に毎号楽しみにしております。

2年程前にカナダの研究仲間から「アメリカがヘリウムを輸出制限して、液体ヘリウムが販売されなくなる」というメールを受け取りました。結局は状況が改善され杞憂に終わったのですが、ヘリウムが希少資源であると再認識すると同時に、極低温施設のありがたみを実感した一件でありました。日本では、国内資源としてのヘリウムガスは皆無に近く、完全に海外に依存しています。また、ヘリウム資源としての天然ガスは主にテキサスなどアメリカ南部で採取されており、今後このような事態がないとも限りません。前号の堀田さんのレポートにもありましたように、日々極低温施設からの液体ヘリウムを使用している者として、気化ガスのリサイクルには十分留意して研究に活用せねばと思う次第です。

(MO)

九州大学極低温実験室だより 第3号

2002年6月発行

発行者	九州大学理学部極低温実験室
発行責任者	網代芳民
編集責任者	矢山英樹
	〒812-8581 福岡市東区箱崎6丁目10番1号
	TEL (092) 642-2701
	FAX (092) 642-2553
印刷所	㈱サガプリンティング
	〒849-0936 佐賀市鍋島町大字森田909番
	TEL (0952) 34-5100
	FAX (0952) 34-5200